

大分方言における可能表現調査の中間報告

松田美香

An Interim Report of the Dialect Investigation

On the Expression of Ability in Oita

Mika MATSUDA

1. はじめに

本稿は、2002年6月に実施された「可能表現調査（九州方言研究会2002年）」の中の大分県方言に限っての中間報告である。大分方言における可能表現は、能力可能／内的条件可能／外的条件可能の3項対立¹だと言われている。現時点で調査によって明らかになったこと、そして今後の課題は何かを以下に述べる。

2. 調査の概要

調査時期 2002年（平成14年）6月
 調査方法 被調査者の内省によって調査票に回答するアンケート方式
 質問文に対して、方言に訳してもらう
 調査人数 2名（男性）

3. 大分方言の結果（中間報告）

可能表現とは、動作主体がその動作をすることができる／できないを表す形式のことである。質問文に対して方言訳を出してもらい、そこから可能を表す形式を抽出した。形式は凡例に示したようにまとめた。なお、意味の区分「心情」「能力」「内的（主体内部の一時的な条件）」「外的（主体外部の条件）」については、渋谷（1993）²に倣ったものである。これらの意味区分をどのように言い分けるか、回答数からの割合をそれぞれ求めた。

表1 大分方言の可能表現形式

	大分市 43歳						宇佐郡 60歳				
	●	◆	★	□	回答数		●	◆	★	□	回答数
心情	13	7	0	0	20	心情	10	9	0	0	19
能力	20	19	0	4	43	能力	18	17	0	2	37
内的	1	9	6	6	22	内的	1	10	1	8	20
外的	1	18	1	22	42	外的	0	14	1	22	37

※ 可能表現形式で回答されなかった場合、また併用語形を記入している・いないによって、合計数がちがう。

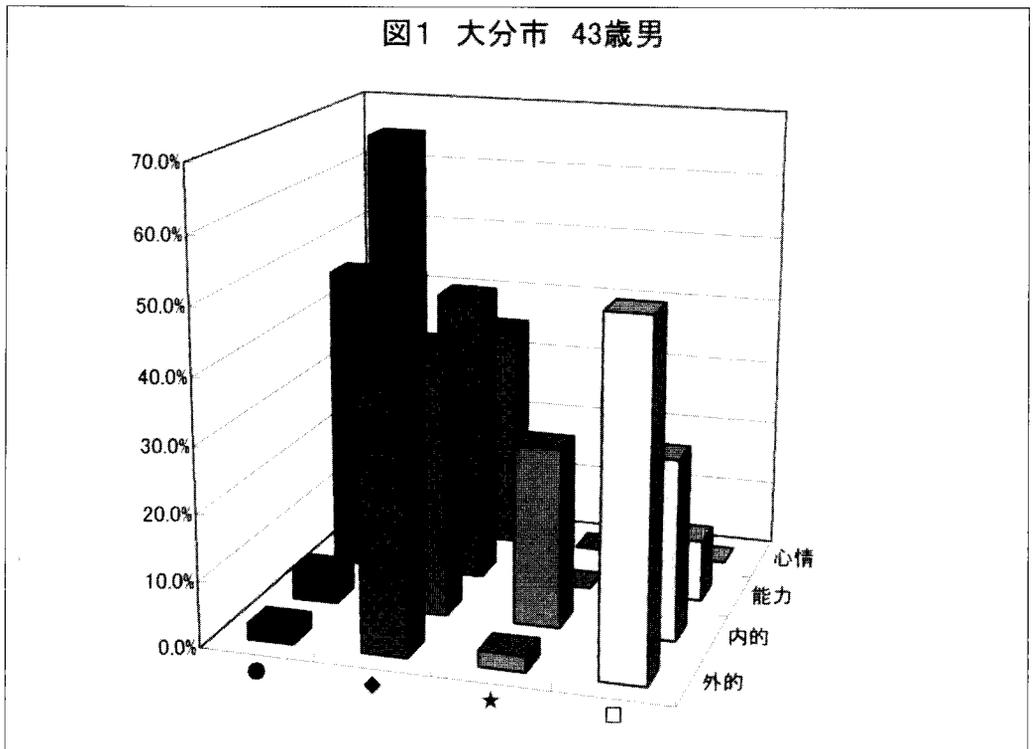
1 3項対立とは、可能表現に使用される形式が複数あり、それに伴う意味の区別が3区分できると言うこと。

2 渋谷勝巳（1993）「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪第紙文学部紀要』第33巻第1分冊

表2 回答数に対する各形式の割合

	大分市 43歳					宇佐郡 60歳			
	●	◆	★	□		●	◆	★	□
心情	65.0%	35.0%	0.0%	0.0%	心情	52.6%	42.1%	0.0%	0.0%
能力	46.5%	41.9%	0.0%	9.3%	能力	48.6%	45.9%	0.0%	5.4%
内的	4.5%	40.9%	27.3%	27.3%	内的	5.3%	52.6%	5.3%	42.1%
外的	2.4%	33.3%	2.4%	52.4%	外的	0.0%	38.9%	2.8%	61.1%

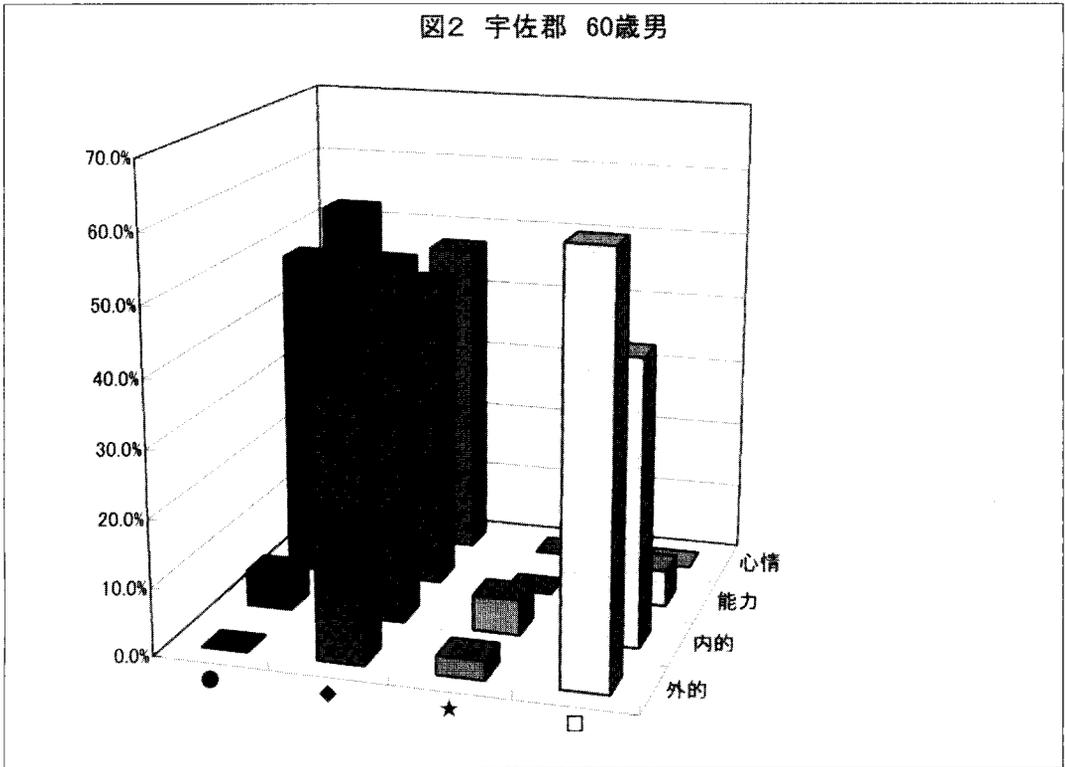
表2をグラフ化したものを次に示す。(図1,2)



凡例

- ：キル系書きキル、食べキル など
- ◆：可能動詞書ケル、読メル、作レルなど
(□のラ抜き可能形 . . . 食べレル、見レル、起きレルなどを含む)
- ★：可能動詞の語幹+レル・レレル . . . 書けレル、食べレルなど
- ：(ラ)レル・(ラ)ルル書かれル、食べラレル など
- ※ その他 . . . デキル (デキン)、食いオーセン、書く (書かん)、シダサン . . .
このグラフには反映させていない。

図2 宇佐郡 60歳男



1) 大分県方言の可能表現3項対立について

大分市(43・男)では、可能動詞を新たに入ってきた共通語形として除けば(可能動詞の形は、可能表現の3つの意味区分全てにまたがって分布している)、3項対立が読み取れそうである。心情・可能/内的/外的(対応する形式は、●/★/□)となる。ただし、「内的」は★だけではなく、□でも表されている。

一方、宇佐郡(60・男)では、●キル系と□(ラ)レル系の、心情・能力/内的・外的(対応する形式は●/□)の2項対立は読み取れるものの、3項対立は成立しているとは言いがたい結果である。しかし、★だけを見れば、内的を担当していると読み取れなくも無い。全体からみた使用率が非常に少ない(5.3%)ため、現時点では、これを1項として認められない。

2) ★可能動詞の語幹+(レ)レルについて³

大分方言の可能表現における特徴は、3項対立があるか否かであり、3項のうちの1つを担う形式として、★可能動詞の語幹+(レ)レルの存在がある。

- 1 キョーワ タイチョーガ ワルイケン シゴトニ イケン/イケレン

(今日は体調が悪いから仕事に行くことができない)

現在否定・1人称・大分市・43歳・男

- 2 キノーワ タイチョーガ ワルカッタケン シゴトニ イケンヤッタ/イケレンヤッタ

(昨日は体調が悪くて仕事に行くことができなかった)

過去否定・1人称・大分市・43歳・男

- 3 ワシワ ユビオ コッセツシチョッテ アシタワ パソコンオ ウテレン 大分市

3 この言い方について、「レ足す(レタス)言葉」という呼び方もあるようだ。

- (私は指を骨折して、明日はパソコンを打つことができない)
 未来否定・1人称・大分市・43歳・男
- 4 キョーワ タイチョーガ イーケン ナンジカンデン オヨゲル/オヨゲレル
 (今日は体調がいいから何時間でも泳ぐことができる)
 現在肯定・1人称・大分市・43歳・男
- 5 キョーワ ウレシイケン イクラデン ウタエレル
 (今日は嬉しいからいくらでも歌うことができる)
 現在肯定・1人称・大分市・43歳・男
- 6 キョー ウレシイコツガアッタケン アタシワ オヨイダラ キット スイスイ オヨゲレル ヤロー
 (今日嬉しいことがあったから明日は泳いだらきつとすいすい泳ぐことができる)
 未来肯定・1人称・大分市・43歳・男

実現されたことを表す可能表現には、調査の限りでは★可能動詞の語幹+ (レ)レルはまったく出現しなかった。★は潜在的な可能・不可能のみに使えるのだろうか。次のような例は意味区分は内的であっても★にならない。

- 7 ワシワ アシ ケガシチョルケン オヨガレン
 (私は足をケガして泳ぐことができない)
 現在否定・1人称・大分市・43歳・男
- 8 タローワ アシ ケガシチョルケン オヨガレン
 (太郎は足をケガして泳ぐことができない)
 現在否定・3人称・大分市・43歳・男
- 9 ワタシワ アシオ ケガシチョッテ キノーワ オヨガレンヤッタ
 (私は足をケガして昨日は泳ぐことができなかった)
 過去否定・1人称・大分市・43歳・男
- 10 ワシワ アシオ ケガシチョッテ アシタワ オヨガレン
 (私は足をケガして明日は泳ぐことができない)
 現在肯定・1人称・大分市・43歳・男
- 11 タローワ サイキン タイチョーガ イーケン アシタ ジュケンスリヤー キット
 イーセイセキオ ダセルジャロー
 (太郎は最近体調がいいから、明日受験すればきつといい成績を出すことができる)
 未来肯定・3人称・大分市・43歳・男

7~10は「脚をけがしている」という状態が共通している。主体以外にも見てわかる条件の場合は、主体内部の一時的な条件であっても★が使えないのかもしれない。

12の宇佐郡(60・男)の★例も体調である(これも主体以外はほとんどわからない条件といえる)。宇佐郡(60・男)の内的で★は、この1例のみだった。

- 12 キョーワ カラダン チョーシガ ワーリーキー シゴトニヤ イケレン 宇佐郡
 (1と同じ)
 現在否定・1人称・宇佐郡・60歳・男

この文が過去否定になると、回答は「イケン」と◆可能動詞となった。他にも「ウテン」、「オヨグル」、「ウタユル」、「オヨグル」と◆可能動詞で回答された。大分方言において、内的は◆から★可能動詞の語幹+（レ）レルへ変化したことがわかる。

否定形に★が多いことから、◆の否定形にレ（レレ）が添加された「イケン→イケレ（レ）ン」などが発生し、否定形から「イケレル」という肯定形が生成されたことも推測される。

11は人称の問題から、★が使われなかったと考えられる。今回の結果からみると、★の使用は一人称に限定されている。

また、主体以外からは確認できない（見えない）条件であれば、外的であっても★が使える可能性もあるという例もある。

13 アシタワ ヨージガ アルケン ユービンキョクニ イケレン

（明日は用事があるから郵便局へ行くことができない）

未来否定・1人称・大分市・43歳・男

宇佐郡（60・男）も同様であった。

14 アシター ヨージガ アッチ ユービンキョクナー イカレン／イケレン

（13と同じ）

未来否定・1人称・宇佐郡・60歳・男

内的の捉え方は、渋谷（1993）では「主体内部の恒常的でない条件」となっているが、今回の結果では「他者に客観的には理解できないような、恒常的でない条件」⁴とした方が適当かもしれない。

3) ◆可能動詞について

3-1. □（ラ）レル系との併用

◆は内的と能力にやや多いといえるものの、全体的に30~40%の使用率があり、意味領域を限定できない。□と併用されることも多い。

15 ビンセンガ ナイケン テガミ カケン／カカレン

（便箋がなくて手紙を書くことができない）

現在否定・1人称・大分市・43歳・男

16 デントーガ クライケン シンブンガ ヨマレン／ヨメン

（電灯が暗いので新聞を読むことができない）

現在否定・1人称・大分市・43歳・男

他4例。ただし宇佐郡（60・男）には□との併用が1例しかない。

17 ビンセンガ ネーモンジャキー アシター テガミヤー カケン／カカレン

（15と同じ）

現在否定・1人称・宇佐郡・60歳・男

3-2. 可能動詞の使用率の差

4 日高貞一郎・種友明（1981）「大分県津江地方の可能表現」『大分大学教育学部研究紀要』大分県津江地方特集を参照。

さらに2者の差異としては、◆可能動詞の使用率がある。宇佐郡(60・男)が大分市(43・男)に比べてやや高い。◆可能動詞は共通語形と先に述べたが、年代が上がったにもかかわらず減少する傾向が見られない。また解答も「オヨグル(泳げる)」「ウタユル(歌える)」といった下二段活用が散見されることから、大分方言では年代を遡って、かなり以前から可能動詞が盛んに使われていたと考えられる。

3-3. 母音語幹動詞の可能動詞への変化

先行研究によると、本来の可能動詞は子音語幹動詞が変化したものであり、母音語幹動詞は無かった⁵。可能動詞はかつての「心情」や「可能」を表す語形であった。さらに、現在の全国共通語では、可能の表現が1区分—子音語幹動詞は可能動詞形で表し、母音語幹動詞はラレル形で表す—のみ(意味の下位区分なし)、さらに近年は双方を可能動詞形に揃えようとする変化による、母音語幹動詞の可能動詞形—例えば「食ベラレル→食ベ(ラ)レル→食ベレル」—があちこちで報告され広まっている⁶。この変化の影響について、渋谷(1993:185-199)には大分県の分布がないことになっているが、約10年後の今、変化が出てきている。可能動詞の下位区分として、子音語幹動詞のもの(書く、読む、作る…)と母音語幹動詞のもの(着る、食べる、起きるなど)を分ける必要があるかもしれない。

母音語幹動詞の可能動詞について、宇佐郡(60・男)では使用する意味領域が「心情」である。

18 キノー オミキッチ ユーチミタラ アンシニ ハナシカケレタ

(昨日、思い切って言ってみたら、あの人に話しかけることができた)

過去肯定・1人称・宇佐郡・60歳・男

1例のみなので、今後もっと質問数を増やす必要があるが、大分市(43・男)では1例も解答されていない「心情」を表している。

大分市(43・男)では、母音語幹動詞の可能動詞の例は以下の通りである。

19 カギオ ナクシタケン アケレン

(鍵をなくしたから、開けることができない)

現在否定・1人称・大分市・43歳・男

20 デントーガ アカルイケン チーセージデン ミレル

(電燈が明るいから、小さい字でも見ることができる)

現在肯定・1人称・大分市・43歳・男

21 メザマシドケーガ アルケン ハヨ オキレル

(目覚まし時計があるから、早く起きることができる)

現在肯定・1人称・大分市・43歳・男

22 ニンゲンワ ミラインコトオ カンガエレル

(人間は未来のことを考えることができる)

現在肯定・人間総称・大分市・43歳・男

23 ホラ、アケレルヨ

5 坂梨隆三(1969)「いわゆる可能動詞の成立について」『国語と国文学』46-11など。

6 渋谷(1993:185-199)「第3部20. 1段・カ変動詞の可能動詞(B型可能動詞)について」参照。なお、母音と子音をローマ字表記によって表している。

7 (さびついてあかないと言い張る相手に、ドアをあけながら)

(ほら、開けることができるよ?)
現在肯定・1人称・大分市・43歳・男

大分市の例は、「人間は未来のことを考えることができる」のみが「能力」で、あとは「外的」である。しかし、宇佐郡の例は明らかに「心情」の意味で使用されている。このような意味のずれは、かつての可能動詞が「心情」「能力」を表していたこと、現代共通語においては可能動詞が可能表現の意味領域全般を覆うに至り、「外的」をも表すことを考えると、次のような推測が説得力を持つのではないか。つまり、大分方言においては、取り入れた時期の異なる2種類の可能動詞が混在している、というものである。しかし何度も繰り返すが、高齢層の出現例をもう少し見なければ、明確な傾向を見出したとは言えないだろう。

4) 例外と思われる回答について

次に、対立を考えた場合に例外となる結果について、考えてみる。

4-1. ●キル系が内的・外的を表す場合

- 24 ソン ハクチョーワ アシュー ケゴーシチョッテ オヨギキラン
(その白鳥は足をケガして泳ぐことができない)
現在否定・3人称・宇佐郡・60歳・男
- 25 (さびついであかないドアをあげようと試みて) アッキランヨ / アカンヨ
(開けることができないよ)
現在否定・1人称・大分市・43歳・男
- 26 キョーワ ツカレチョッテ ヨルマデニワ ロンブンオ カキアゲキラン
(今日は疲れていて、夜までには論文を書き上げることができない)
未来否定・1人称・大分市・43歳・男

24, 25の例は、キルの原義に近い「本来の動きや変化の達成」の意味で使われている。24は、その白鳥には完全な(本来の)泳ぎができない点に焦点を当てたと考えられるからである。25もさびついているという外的条件よりも、動作主体の人間に本来の開け方ができないと捉えて●を使ったのだろうか。話者のコメントに「意味次第でどちらかになる。自分に重点だとアケレル。ドアに重点だとアク。」とある。26は論文を書き上げるという動作の達成ができない条件を「疲れている」としているが、設定した内的条件よりも、達成や完遂ができないということに焦点があると解釈すれば説明がつく。

4-2. □(ラ)レル系が心情・能力を表す場合

- 27 コン クレーンワ 30トンイジョーン モンワ モチアゲキラン / モチアゲラレン
(このクレーンは30トン以上のものは持ち上げることはできない)
現在否定・人間以外・大分市・43歳・男
- 28 コン ハシワ 10トンイジョーン オモサオ ササエキラン / ササエラレン
(この橋は10トン以上の重さをささえることができない)
現在否定・人間以外・大分市・43歳・男

29 コン クレーンワ30トンイジジョン モンオ モチアゲラルル
(このクレーンは30トン以上のものを持ち上げることができる)
現在肯定・人間以外・大分市・43歳・男

30 コン ヘヤワ 100ニンシカ イレラレン
(この部屋は100人しか収容することができない)
現在否定・人間以外・宇佐郡・60歳・男

31 コン ヘヤワ 100ニン イレラルル
(この部屋は100人収容することができる)
現在肯定・人間以外・宇佐郡・60歳・男

28～31は、人間以外の物・場所を主体とした質問文である。このような場合、コメントにも、擬人法としての捉え方をすれば能力に、禁止の意味（それ以上の重さや人数は危険である）・許可の意味としての捉え方をすれば外的になるとあった。しかし、このように2つの意味領域にわたる解釈を許す場合は例外として扱わなければならない。

5) その他の形式

5-1. イキダサン・ミダサンについて

32 ジカンガ ナクテ イケン／イキダサン
(時間が無くて、行くことができない)
現在否定・1人称・大分市・43歳・男

33 ヒマガネージ イキダサン
(32と同じ。)
現在否定・1人称・宇佐郡・60歳・男

34 イソガシュージ エイガオ ミダサン
(忙しくて、映画を見ることができない)
現在否定・1人称・宇佐郡・60歳・男

これら3例からは、時間に関して「そんなことをする時間がないので～することができない」という意味で動詞連用形+ダサンが使われていると言える。しかし否定形のみに出現し、また1人称しか使われていない。

5-2. クイオーセンについて

35 ヒトリジャ クイオーセン
(こんなにたくさんは、一人では食べることができない)
現在否定・1人称・宇佐郡・60歳・男

オーセンについては、宇佐郡のコメントにしか例が無い。実際の回答は以下の通り。

36 コゲ ウントワ クイキラン
(35と同じ)

現在否定・1人称・宇佐郡・60歳・男

37 コゲン タクサンワ タベキラン

(35と同じ)

現在否定・1人称・大分市・43歳・男

例が少ないので、なんとも言えないが、「完遂」の意味がありそうなので、人称と肯定形で使えるかどうか調べる必要がある。ダサンやオーセンもキルと同様に過去に能力可能を表していた可能性がある。

3. 今後の課題

★可能動詞の語幹+ (レ) レルという形式は、今回の調査からは主体内部の一時的な条件であっても、外部から見える場合は使わないことがわかった。その場合は(ラ)レル系の方を使うことから、★は、あくまでも発話主体の「主観的な判断による」可能／不可能(主に不可能)を表しているという仮説を得る。今後の調査票にはそれを検証できるように、「外から見えない一時的な条件」と「外から見える一時的な条件」の質問文を揃え、増やすことが必要である。

可能表現の調査は難しい。非調査者にじっくり考えてもらえばもらうほど、さまざまな視点が生じて、回答を1つに絞りきれなくなるようだ。図1、2からも、1つの現象をどのような点から可能／不可能と表現するかは決められない例があることがわかる。話者の頭の中には境界のはっきりしない可能表現の意味領域が存在し、それぞれの形式のプロトタイプと照らし合わせながら、表現を選び取っているのではないか。図1、2にはそれが棒グラフの形で表れている。

今後の最大の課題は、いかに適切な質問文を作成するかということと、今後どのようにして大分県各地や各年層で調査を行うかである。

本稿は、第14回九州方言研究会(平成14年7月27日)において、中間報告したものを加筆・修正したものである。貴重なご意見をいただいた参加者の方々に感謝いたします。また、話者もお引き受けくださった方々からは、発表後も貴重なご教示をいただきました。記して感謝申し上げます。

迫野虔徳氏(九州大学文学部教授) 二階堂 整氏(福岡女学院大学助教授)

論文要旨

本稿は、2002年6月に実施された「可能表現調査（九州方言研究会2002年）」の大分県方言についての中間報告である。大分方言における可能表現は、能力可能／内的条件可能／外的条件可能の3項対立だと言われている。現時点で調査によって明らかになったことは、大分市・43歳・男性は3項対立を持っていると言えそうであるが、宇佐郡・60歳・男性には現時点で3項対立があるとは言えないということである。

Summary

**An Interim Report of the Dialect Investigation
On the Expression of Ability in Oita**

Mika MATSUDA

This study is the expression of Ability in Kyusyu Dialect (The Society for the Study of Kyushu Dialect 2002). The precede studies reported that there are three forms on the expression of Ability in Oita. This investigation has not finished. Now, A man who was born in Oita-city in1959, has a distinction three meanings of ability between three forms; Ability in subjective circumstances, Ability in objective circumstances and Ability in a man who has. (e.g. a verb “kaku(write)”, kak-ereru, kak-areru, kak-ikiru.) But, a man who was born in Usa-district in1942, has not a clear distinction between three forms.